

ID No.	2004
研究課題名	神経内分泌腫瘍(NET)のがん抑制遺伝子 PHLDA3 欠損マウス作製による NET 発症メカニズムの解明
研究代表者	大木 理恵子 (国立がん研究センター研究所・独立ユニット長)
研究組織 受入教員 研究分担者	市瀬 広武 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究報告 今年度は、作製したターゲッティングベクターを用い、遺伝子改変マウス作製を行った。flox/flox あるいは mCherry KI/flox のホモ型マウスを得ることに成功した。また、mCherry レポーターが機能していることを確認できた。医科学研究所への来所は 1 回であったが、これまではベクター構築部品のアセンブルに専念しており、部品については郵送でやり取りを、打ち合わせ・データのやり取りはメールで行ったため、経過報告の時点までには出張の必要がほとんど発生しなかった。また、発生工学研究支援室の利用については、作業内容の特殊性や動物施設入館上の制約があるため、遂行を医科研の受け入れ研究者に一任した。発生工学研究支援室では、ES 細胞における 1 遺伝子の改変のための細胞培養と、独立した ES 細胞 2 クローンのキメラマウス作製をすべて合わせて、1 回のマウス作製とみなす、とのことなので、利用回数は 1 回とし、利用時間は未記入とした。	